

中央人権の日

4月15日

一人一人がかけがえのない存在として認め合い、支えあい、つながり合って、共に生きていくこと、人権問題を解決していくことの大切さを考える日にしよう。

「楽」に生きることの危険性

昼間部 人権教育課

非常事態宣言を受けて、徳島県でも突然にすべての公立学校の休校措置が延長されることになってしまいました。始業式・入学式後に1日登校した後に、再び休校となり、新入生の皆さんはせっかくの新生活スタートに、2年次生以上の人たちも久しぶりの学校生活を楽しみにしていたところに水を差された形となり、本当に残念なことでしよう。

始業式の日には「このまま1年間休校になって、そのまま卒業できたらいいのに」と言っている3年次生もいました。確かに1年間学校に登校しないまま、卒業できたとしたら「楽」かもしれません。では、「もしも」の話ですが、その休校措置が延長されている間に、ジャンボ宝くじ1等前後賞が当たり、10億円が手に入り、高校卒業後の5歳で年金がもらえるまで就職すること無く、在宅生活を続けられたとしたらどんなでしょうか？もちろん在宅生活の中で自由にする時間を上手に充実させる生活を送れるなら、超ラッキーなことでしょう。でも、人間は本能的に「楽」を求めようとしてしまうように思います。仕事など「しなければいけないこと」を「しなくてもいい」状態がずっと続くと、ちょっとしたことでめんどくさくなってしまいがちです。長期の休みなどで、特になにもないでいい日に、ほとんどなにもないまま一日が過ぎてしまった経験はありませんか。タイトルの「楽」に生きる危険性とは、ようするに限られた人生の時間の無駄づかいを言いたいのです。「楽」に「楽」にが過ぎると、なんにもないままに時が過ぎてしまいます。

では、幸せな人生は、時間をどのように使うことがいいのでしょうか？私もまだまだ人生の途中で、「これが幸せな人生だ」と自信を持って言えるような人生を歩んでいるとは言いがたいのですが、「楽しい」「うれしい」は幸せにつながっていると思います。いろいろな「楽しい」「うれしい」があるとは思いますが、年を重ねていくうちに、「できた」とか「うまくいった」とか「わかった」とか「他の人に喜んでくれた」とかといった、自分が成長したこととか人に感謝されたとかによる「楽しい」「うれしい」が特に幸せにつながるように思えるようになってきました。人とのつながりも幸せには大事な要素だと思えます。学校生活で人権尊重の理念（一人一人の人権が調和的に行使される人権共存の考え方）を学び、「幸せな人生」を目標にがんばりましょう！

皆さんの休校中の生活が充実することを願います。

